

年間約90回の教養講座を行う 進学指導重点校のキャリア教育

— 千葉・県立 ひがしかつしか 東葛飾高校 —

県内トップクラスの進学実績と、自由な校風で知られる東葛飾高校。
進学指導重点校の指定を受け、大学進学指導の強化とともに、
生徒の興味関心を広げたり社会人としての基礎力を養う取り組みにも力を入れている。

取材・文 / 藤崎雅子

● 実践のKeyword

進学指導
重点校

教養講座

外部講師

高大連携

リーダーシップ
育成

インターンシップ

仲間との議論とゲストの話で
テーマを深める講座を展開

10月のある土曜日、千葉県立東葛飾高校では「東葛白熱教室」が開催されていた。テーマは「自由と自律」。自由、あるいは不自由と感じることは？「殺人や窃盗の自由が許されていないのはなぜ？」「自律と自立ってどこが違うの？」…提示された問いについて、3〜4人のグループに分かれた生徒たちが真剣な表情で話し合っている。全体討論では、サンデル教授ならぬ同校の福島毅先生が、巧みに生徒の発言を促し意見を拾っていく。ゲストとして、本物のサンデル教授へのインタビュー経験をもつ哲学雑誌発行者も登場。哲学のおもしろさを語った。

これは、同校が5年前から実施している「リベラルアーツ講座」のひとつだ。ほかにも、大学教授による首都直下地震に備えるための講義、検察庁職員による模擬裁判など、多彩な講座が月に数回開かれている。

「在り方生き方」と「大学進学」の
両輪による進路指導体制へ

同校は、校是である「自主自律」の精神が息づく自由な校風の学校だ。制服は1960年代に生徒により撤廃。学校行事は生徒主体で盛大に開催。40年前から続く「自由研究」には、生徒が自分で決めたテーマに自由なスタイルで取り組む。県



「東葛白熱教室」では、保護者や教員も生徒に交じってグループをつくり、机一面に敷かれた模造紙や付箋にメモしながら議論を進めた

内有数の進学校だが、進路に関しても生徒自身が自主的に取り組むものという空気があり、十数年前までは授業で大学受験の問題を取り上げないという不文律があったほどだ。

しかし、現役で大学進学する割合が大きくなるにつれ、近年は生徒や保護者が学校の進路指導にも期待を寄せるようになってきた。そんななか、2004年に県から指定を受けてインターンシップを導入することに。これがキャリア教育に取り組むきっかけとなった。インターンシップの立ち上げにかかわった進路指導主事の長束倫夫先生は、実施の手応えをこう語る。「参加した生徒は目標が明確になってぶれがなくなり、参加しなかった生徒



School Data

普通科 / 1924年創立
 / 生徒数 1010人(男子559人・女子451人)
 進路状況(2010年度実績) 大学68.3%・短大0.3%・
 専門学校0.6%・その他30.7%
 千葉県柏市旭町3-2-1
 TEL 04-7143-4271
 URL <http://www.chiba-c.ed.jp/tohkatsu/>



校庭には校は「自主自律」が刻まれた石碑が立つ

Outline

千葉県北西部を代表する進学校。2007年に千葉県教育委員会より進学指導重点校の指定を受けて5年目。生徒の自主性を尊重する伝統を土台に、新たなビジョンを掲げて教育内容の充実に取り組んできた。毎年他県の先進校視察や予備校の授業研修を実施し、内容を全教員で共有して学校経営に生かしている。2011年2月に千葉県教育委員会「魅力ある高等学校づくり大賞」を受賞。

も刺激を受けて将来を意識するようになります。そんな生徒たちの変化を見て、2年間の指定期間を終えても継続、拡大していきたいと思えました」

2007年には県の進学指導重点校に指定されるが、大学受験指導に焦点が絞られることはなかった。さまざまな先進校を視察して参考にしながら、「東葛らしさ」を生かした独自の進学指導体制を模索。作業部会を中心に検討を重ねた結果、希望の大学や学部への合格を支援する大学進学指導と、夢や興味関心から学問分野や職業そして生き方や在り方を考えさせるキャリア教育の、両方を重視する方針が固められた。

「いつ何があるか予測がつかない不安定な現代社会で、自分の志や強い軸をもって生きる力が求められています。大学でも専門の学問だけでなくジェネリックスキルや学士力の育成に取り組むなか、高校時代にそうした力の基礎を身につけさせたいと考えました」(長束先生)

こうして07年度から、基本構想の「四学四進」、つまり学力の増進、学志の高進、学問への前進、大学への適進という4つの柱に基づき、10の具体策に力を入れている(図1)。そこには、授業の充実や論文指導体制の確立などの受験対策とともに、インターンシップ(図2)や「自由研究」もあげられている。また、新たな取り組みもいくつか始まった。7月のある1日に1学年は千葉大学、2学年は数校に分かれて大学を訪問する「進路の日」の設置もそのひとつ。そして、最も、東葛らしい、施策と

図1 進学指導重点校として10の施策

- ① 魅力ある授業の充実
- ② 自学自習の場の提供
- ③ 学力増進のための評価検討
- ④ 「リベラルアーツ講座」の展開
(東京大学金曜特別講座、SPP事業による高大連携含む)
- ⑤ 「志学(読書リスト)」「(東葛生に読ませたい本紹介)の有効活用
- ⑥ 自由研究の継承と進化(40年前から実施)
- ⑦ 論文指導体制の確立
- ⑧ 「進路の日」(大学訪問や模擬講義受講等)等の活用
- ⑨ 外部テストの適正利用
- ⑩ インターンシップの拡充

図2 インターンシップの概要

- 【対象】** 2学年希望者(80人程度)
【期間】 夏期休暇中の2日間
【特徴】 ○ジョブ・シダウ的要素が強い事業所もある
 ○「どんな経験をするか」という以上に「どんな社会人に会うか」を重視
【インターンシップ先】 23事業所(2011年度)
【見学・体験職種】 医師、薬剤師、看護師、弁護士、公認会計士、税理士、旅行会社の営業・企画職、新聞記者、教育企画・出版、小学校教諭、保育士、社会福祉士、コンピュータプログラマー、地球工学・環境科学研究職、博物館学芸員・企画・研究員、金融関係職営業、イベント企画会社の営業・マーケティング職、地域メディア運営企画、ダンス教室運営、バレエ公演の舞台づくり、少年サッカー教室運営、飲食店経営、アパレル業、インディーズ歌手など

して新たにスタートしたのが、冒頭に二例を紹介した「リベラルアーツ講座」だ。

大学や博物館などと連携した発展的な教養講座を実施

教科の枠にとらわれずに発展的な内容を扱う「リベラルアーツ講座」は、「進路や興味・関心をみつけたら、自主的に学んでいく、きっかけにしてほしい」(長束先生)との目的で始まった。土曜日の午後や夏期休業中を中心に、1コマ2〜3時間で実施されている。例年30前後の講座が設定されるが、ひとつの講座で数回開催されるものもあるため、実施回数は約90回に及ぶ。参加人数は講座によって異なり、20〜30人で行われるものが多い。1年生は

最低1講座の参加が必須で、2〜3年生は自由参加。なかには10講座以上に申し込む生徒もいるという。

内容は大きく4種類に分けられる(図3)。国語科主催の文豪ゆかりの地の散歩、社会科主催の模擬裁判など、教科ごとに企画する講座。教員個人の経験や人脈をもとに、教科学習に直結しないテーマも扱う講座。「東葛OB・OGが語る職業」のような進路に関連した講座。そして、東京大学連携講座やサイエンスパートナーシッププロジェクト(SPP)など大学の公開講座だ。活動場所は校内にとどまらない。博物館訪問や街道歩きなど校外で実施するものも少なくなく、宿泊して農村歌舞伎を鑑賞する講座もある。講師は同校教員が務めるほか、内容によ

図4 東葛自由大学の講座の一部(2011年度に予定されている26講座より抜粋)

テーマ	内容	講師
アタマがよくなるノートの取り方	アタマがよいとはどんな状況をいうの？ 社会に出て通用するアタマのよさを身につけるためのノートの取り方、「マインドマップ」について実践してみる	医師
学問の在り方を考える	ドキュメンタリー映画「哲学への権利」を観て、監督の西山雄二氏を交えて哲学と教育の未来を問う討論会を行う	教育コンサルタント
困った時のコミュニケーション術	日本人は自己主張が苦手と言われたり、逆にクレマーなど激しい自己主張も増加。利害が対立するときの解決の仕方を学ぶ	医師・コーチ
周りから一歩突き出るための学生時代の過ごし方①②	①「あの人がいたら社会に出て活躍できそう！」という人は何が違うか考える ②参加者全員で意見交換をすることによって、今後どうすればよいかを考える	大学講師・就職カウンセラー
日本人にめざめる①日本語とコミュニケーション	互いの違いを知り、ともに生活するための方法をみつける。違いを知るにはまず、自分を知ること	日本語教師
レゴブロックで10年後の自分を創る	マサチューセッツ工科大学で開発されたレゴブロックを用いたビジョン形成のワークショップ。イメージや感情をブロックで表現しながら将来像を探る	企業・大学研修会社担当
新しい製品を考え出してみよう	リバーエンジニアリングという手法で新製品を考える過程をグループ作業しながら追いかける	ビジネスコンサルタント

図5 高校生版リーダーシップ研修の年間計画(2011年度)

月	タイトル	内容
5	リーダーシップ概論 Why How	今の時代に求められるリーダーとは。最新のリーダーシップ論
6	リーダーからのストーリーを聴こう	実際のリーダーや人材開発をしている現場の人の話に耳を傾け、今の自分の行動・態度と照らし合わせてみよう
7	リーダーシップの実践と振り返り1(過去実践してきたこと)	小中学校でのリーダーとしてしてきたこと、してこなかったことの振り返りを行い、今後リーダーとして自分がなすべきことは何かに気づく
8	リーダー練習・ケーススタディ1(ロールプレイなど)	集団や組織には、必ず自分にとって苦手であったり手強い相手が存在する。いじわるな相手、苦手な相手、熱心だけど自分とは正反対の意見をもつ相手、やる気の無い相手などである。これらのロールを仲間演技してもらいながら、自分がリーダー役となって、その中で言動やふるまいを体験する。安心・安全な場でこれらの環境に慣れておくと、いざ実践する時に役立つ
9	リーダー練習・ケーススタディ2(ロールプレイなど)	リーダーに必要な気質、考え方は何か。もう一度基本に立ち戻り、世界のトップリーダーやファンリーダーの在り方に学ぶ
10	守破離のリーダーシップ「守」基本を知る	リーダーに不可欠なコーチングやファシリテーションといった技術を実践で身につけてみよう
11	守破離のリーダーシップ「破」応用してみる	自分の強みや持ち味を発見しよう。そして自分なりのリーダー像をみつけていこう
12	守破離のリーダーシップ「離」自分スタイルをみつける	自分スタイルをみつける
1	集団の中でリーダー実践1 コミュニケーション	集団の中でリーダーとして、どのようなコミュニケーションの取り方をすればよいのかを、理論と実践で学ぶ
2	集団の中でリーダー実践2 チームビルディング～アクション	自らが学び進化していく組織を作るためのノウハウ。机上の空論でなく、アクションにつなげ、継続していくためのポイントとは何か
2	リーダーシップの実践と振り返り2(現在実践していること)	今までの高校生活や課外活動で実践してみたリーダーシップについて仲間と振り返り、社会人の方からアドバイスをもらう
3	ゲストトークまとめ全体振り返り	研修全体の振り返り。ゲストトークや映像をみて未来につながる一歩を踏み出す。これからやってみよう！未来のプロジェクト計画をたてよう

図3 東葛リベラルアーツ講座の主な内容(2011年度)

区分	講座名	講師	開催月
教員主体	東京大学「金曜特別講座」(インターネット配信映像)	東京大学教養学部講師陣	4~2月(全24回)
	谷根千文学散歩	同校教諭	5月
	模擬裁判	千葉地方検察庁職員	7月
	文学研究	研究者	7月
	日本の至宝~美と技~を観る	東京国立博物館学芸員	8月
	RSA暗号の理解を深めよう	同校教諭	8月(3日間)
	柏の戦争遺跡を歩く	同校社会科教諭陣	10月
	ブータンの学校ってどんなとこ?	元JICA職員	10月
	分子模型研究	同校教諭	10月
	初等算数論における興味深い話題	埼玉大学大学院教授	10月
	高校生のための認知言語学入門	東京外国語大学准教授	10月
	自然科学公開講座:半導体が導く明るい世界~LED,太陽電池~	筑波大学	11月
アフガニスタンの人と暮らし~ニュースで報道されない今のアフガニスタン~	日本国際ボランティアセンター	11月	
教員主体	東葛自由大学 ※詳細は図4	社会人チーム	4~3月(全11回)
	高校生版リーダーシップ研修プログラム ※詳細は図5	社会人チーム	4~3月(全12回)
	首都直下地震に備える	東京大学地震研究所教授	6月
	科学館は頭の遊園地!	千葉市科学館館長	7,11月(全3回)
	高校生模擬裁判選手権(第5回)	弁護士、千葉地方検察庁職員	8月
	檜枝岐歌舞伎鑑賞会	檜枝岐歌舞伎保存会	8月(宿泊あり)
	旅をデザインする①ロンドン	同校教諭	8月
	旅をデザインする②イギリス	同校教諭	8月
	東葛白熱教室「これから自主・自律・自由の話をしよう」	同校教諭	10月
	哲学とは何か	同校教諭	10月
	全日本高校生模擬国連大会(第5回)	-	11月
	進路講座	東葛OB・OGが語る職業①人生失敗なし~起業という生き方~	同校OB
東葛OB・OGが語る職業②夢をカタチにする仕事~テレビ制作の現場~		OB(東葛助っ人バンク)	12月
東葛OB・OGが語る職業③夢をカタチにする仕事~総合商社の一仕事体験~		OB(東葛助っ人バンク)	2月
公開講座	筑波大学連携講座SPP	筑波大学	5~6月(全3回)
	博学連携講座「上総鎌倉街道」を歩く	袖ヶ浦郷土博物館	7月
	東京大学連携講座SPP	東京大学大学院	7月(全2回)

今年度は新たにこれまでにないタイプの講座、「東葛自由大学」と「リーダーシップ研修」が始まった。どちらも、3年前に着任し今年度から総務部でリベラルアーツ講座担当を務める福島先生が考案し、外部の協力を得てワークショップ形式で実施している。これらの増設により、「当初のねらいのぎっかくけつくりにとどまらず、講座そのものでさまざまな力を育てられ

て大学教授や各分野のスペシャリスト、同校卒業生が招かれる。進路指導部が「助っ人バンク」という卒業生グループを組織化しており、そのメンバーが協力する場合もある。また、各講座には保護者も参加可能で、地域コミュニティ「柏まちなかカレッジ」との共同開催による講座もあり、多様な大人と高校生が交わる場となっている。こうしたリベラルアーツ講座は、教員にとってもプラスになっているようだ。外部の専門家を講師として招くことで教員自身の専門知識や視野が広がり、授業に還元される。また、授業の枠を超えて生徒とつながりももてる効果もあるという。

「私が担当する『政治・経済』は3学年対象の科目ですが、講座を担当しているとそうした分野に興味をもつ生徒を1,2年の時から把握できます。授業のやりやすさにつながりますし、生徒の可能性を広げることにも役立ちます(長束先生)」

「今年度は新たにこれまでにないタイプの講座、「東葛自由大学」と「リーダーシップ研修」が始まった。どちらも、3年前に着任し今年度から総務部でリベラルアーツ講座担当を務める福島先生が考案し、外部の協力を得てワークショップ形式で実施している。これらの増設により、「当初のねらいのぎっかくけつくりにとどまらず、講座そのものでさまざまな力を育てられ

るようになった」と長束先生はいう。まず、「東葛自由大学」は今年度11回実施されるが、各日とも3~4テーマの講座が開かれ、年間26講座が予定されている(図4)。物事をうまく整理して人に伝える力をつけるための「東大生が教えるアカデミックライティング」、システムエンジニアの講師が多様な人と分け隔てなく付き合うための講義と演習を行う「人の多様性」など、実社会で求められる力や考え方を学ぶことができる。

「今、政治も経済もうまく回っているとは言えませんが、何が足りないのか、そして子どもたちが将来その社会に出た時に問題解決していくには何が必要か。そう逆算して、高校生のうちに身につけておきたいことを集めて構成しています(福島先生)」

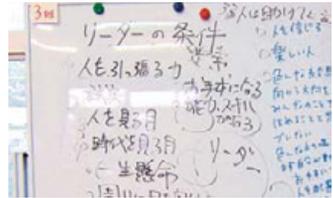
また、「リーダーシップ研修」は12回のプログラムの中で、リーダーシップの基本から実践までを学ぶ(図5)。ロールプレイでリーダーとしての言動を体験したり、過去のリーダー体験を振り返ったり、実践的な内容だ。リーダーシップは組織のトップに立つごく一部の人のみならず、誰もが持つべき能力だが、福島先生の考えは少し異なる。「広くとらえると、幸せな家庭を築くのも、自分自身で進路を切り拓いていくのもリーダーシップ。すべての高校生に学んでほしいものです。また、リーダーシップの形は1つではなく、コーチ型や奉仕型などたくさんあります。自分の強みと弱みを知って、実践できる引き出しを増やしてほしいと思います(福島先生)」



2学年主任・
リベラルアーツ講座担当
福島 毅先生



進路指導主事
長束倫夫先生



第6回リーダーシップ研修では、社会人と生徒が車座になり自らのリーダー体験を語った。各自の強み・弱みをシートに分析、課題を克服するための知恵を出しあった

社会人が無償ボランティアで 進んで参加したくなる

これら新講座の実践を支えているのは、各分野のスペシャリストや企業の第二線で活躍する、70人弱の社会人ネットワークだ。社会人の参加人数やかかり方は講座によって異なるが、講師としてプログラムを提供したり、自らの体験を語ったり、生徒のサポートにあたるなどしている(写真)。

この社会人ネットワークは、福島先生がこの2〜3年で個人的に築いてきたものだ。現代社会で求められる「コミュニケーション」や対話に関心があつた福島先生は、企業の組織開発や人材開発関連の書籍を読んだり、社会人向けのセミナーやワークショップにも多数参加。地域コミュニティの立ち上げや社会人が学ぶ場づくりなどの活動も行ってきた。さまざまな人と交流するなかで、福島先生は「学校教育に携わりたい」と思っている人がたくさんいることを知った「という。そこで、高校生とのかかわりに興味をもつ社会人に対して、メーリングリストで講座の構想を伝え、参加・協力を呼びかけるようになった。

講座ごとに募られた社会人は何度か打ち合せをしたり、膨大な資料やワークシートを用意したりするが、すべてボランティアで行っている。「二方向的に高校生に提供してもらおうのではなく、提供する側も得るものがあるような、双方向の学びがねらい」と福島先生。例えば、若年層向けアプローチの体験を業務に役立てたり、経験

を語ることで自らの生き方を考えさせられたり、参加してみたい内容だからこそ、社会人は協力を惜しまないようだ。「『学校ってそんなこともできるの?』という、既存の枠にとらわれない新しい教育拠点のモデルを示していけたらと考えています」(福島先生)

能動的に学ぶ意識を 高めるために

進路指導重点校として高い実績が求められる同校。それが「リベラルアーツ講座」

を大規模に展開し、生徒も積極的に参加。インターンシップには2学年の4分の1が参加し、総合学習では各自が自由に研究活動をする。大学受験には直接関係ない活動に多くの時間と労力を使うことはリスクもある。しかし、「進学実績にマイナスとなるどころかプラスの影響が出ていく」と長束先生。生徒の話からも、こうした活動が自身の進路意識や意欲を高める様子が見える(Interview)。

来年度から「リベラルアーツ講座」はさらに進化する。生徒から希望者を募ってプロジェクトチームを作り、生徒自身が学びた

いテーマを取り上げたり、話を聞いてみたい人を講師に招いたりできるようにするという。

「行事などでは自ら動く本校の生徒も、勉強や学びのことになると、受ける側という意識です。しかし、学びは『生続く』の。講座の企画にかかわることで、自ら学びを設計し、他者の知恵を借りて学んでいこうとする意識や力をも身につけてほしいですね」(福島先生)

今後も長期的な視野に立つて生徒の成長を促すという、同校の方針に揺るぎはないようだ。

Interview



2年
中村英嗣さん
(写真左)
鈴木慎平さん
(写真右)

リベラルアーツ講座を受講して

「今年は『リーダーシップ研修』、『上総鎌倉街道を歩こう』、『檜枝岐歌舞伎鑑賞会』の3講座を選択しました。『リーダーシップ研修』では東葛のOB・OGの方や大企業の方から現実社会での話が聞け、リーダーってなんだろう?と考えるいい機会になりました。それまでのぼくは、リーダー像に1つの型のイメージしかもってなかったのですが、いろんな型があるんだと気づかされました。自分の考えが崩れて、今はまだ頭の中が整理されていない状態ですが、新しく学んだことを踏まえてまた考えを積み上げていきたいです。

また、『上総鎌倉街道』と『歌舞伎』の2講座は、民俗学に詳しい地理の先生が開いてくださったもので、知らない世界が明らかになる楽しさを感じました。リベラルアーツ講座でも授業でもそうなのですが、教科書の枠を超えて深い内容を取り上げてくださるので、興味が掘り起こされます。ぼくが迷いながらも理系に進もうと思っているのは、授業で理科や数学のおもしろさを知って、もっと専門的に勉強してみたいと思ったから。実は数学が苦手なのですが、頑張ってみようかな、という気持ちになりました」(中村さん)

「ぼくは1年の時、東京大学の『金曜特別講座』を受講しました。いろんな分野に触れたかったんで、これは年間20回ぐらいあって毎回違う科目の先生の話が聞けるし、インターネットで東大とつながるというのがおもしろそうだなと思って選びました。一番印象に残っているのが哲学の講義です。難しい言葉も出たりするけれど、わかりやすく説明してくださったので、人間について深く考えることができました。今でも一緒に講座を受けた友達と、時々話題にしています。

2年になってからは『リーダーシップ研修』を受けています。初めて受講したのは、新しいクラスで心細い思いをしていたころ。研修で大学生や働いている方たちのいろんな話をうかがい、皆さんも似たような体験をされていたとわかって安心できたことは、その後の学校生活にプラスとなりました。また、ぼくは文化祭の代表委員としてあまりうまくクラスをまとめることができなかった経験があるんですが、研修で学んだことを生かしてステップアップしていけたらなと思っています」(鈴木さん)